

ミニチュア工作  
マンリフト (ケーブルカー)  
(南足柄市 大雄山最乗寺)



マンリフト (幅 15cm 奥行 26cm 高さ 28cm)

村上洋一 著

## はじめに

南足柄市の大雄山最乗寺は、曹洞宗に属し全国に4,000余りの門流をもつ寺院です。開創以来600年の歴史をもつ関東の霊場として知られ、境内は老杉が茂り堂塔は30余棟に及びます。最乗寺には御利益をいただきエネルギーを感じる、パワースポットと呼ばれる場所や建物の他、6体の大天狗と小天狗、世界一大きい高下駄と初代高下駄などがあり、見所満載です。パワースポット(本堂、洗心の滝、結界門、御真殿、奥の院、三面殿、慧春尼堂、座禅石)を巡るスタンプラリーが楽しめます。

これまでに20~30回訪れていますが今年7月に初めて、「マンリフト」と呼ぶケーブルカーの運行を目撃しました。マンリフトは、特別祈禱が行なわれる御真殿までの移動が困難な方に使用されます。観光地にある洋風のケーブルカーの形状は寺院に不似合だということで、「切り妻」の屋根を有する和風の形状にしたということです。形状がユニークなので、マンリフトのミニチュアを作りました。

## 目次

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1. 大雄山最乗寺        | P 2 |
| 2. マンリフト         | P 6 |
| 3. ミニチュアのマンリフト   | P 7 |
| 4. これまでに見たケーブルカー | P 8 |



ミニチュア工作 高下駄と天狗のうちわ

## 1. 大雄山最乗寺(ホームページより引用)

### (1) 沿革

大雄山最乗寺は、曹洞宗に属し全国に 4,000 余りの門流をもつ寺です。御本尊は 釈迦牟尼仏、脇侍仏として文殊、普賢の両菩薩を奉安し、日夜国土安穩万民富樂を祈ると共に、真人打出の修行専門道場です。

開創以来 600 年の歴史をもつ関東の霊場として知られ、境内山林 130 町歩、老杉茂り霊気は満山に漲り、堂塔は 30 余棟に及びます。

### 大雄山最乗寺の概要

項目	概要
面積	128 ヘクタール(東京ドーム 27 個分)
杉の木の数	17 万本
一番太い杉の木	幹周り 7m21cm、高さ 42m
石段の数	708 段(下乗石～奥の院、奥の院の階段は 354 段)
石塔の数	621 基(一番古い塔は 382 年前、御開山坐禅石の上)
建物の数	44 棟
門の数	6 門 (仁王門、三門、瑠璃門、碧落門、結界門、奥の院参道石段入口)
天狗さんの数	6 体(結界門、御真殿、奥の院参道石段)
大黒天の数	2 体(瑠璃門回廊、三面殿)

### (2) パワースポットとスタンプラリー

最乗寺にはパワースポットと呼ばれる、御利益をいただきエネルギーを感じる場所や建物があります。8 ヶ所のパワースポットをめぐるスタンプラリーがあります。総受付で台紙(¥300)を買い求め、それぞれの場所で参拝後スタンプを押します。

1 時間半、6,000 歩でパワースポットめぐりを行いました。



スタンプラリーの台紙と参拝し押印したスタンプ(2022.8.12)

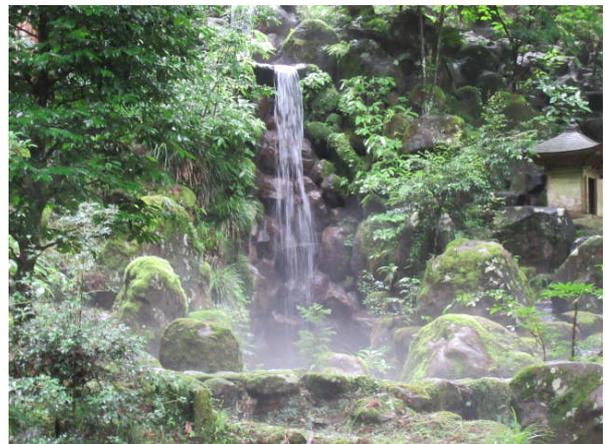
パワースポットめぐり



パワースポットめぐりの場所(最乗寺のホームページより引用)



① 本堂(護国殿)



② 清心の滝



③ 結界門(左右に天狗が控えます。)



④ 御真殿(特別祈禱が行なわれます。)



⑤ 奥之院(354段の階段の上です。)



⑥ 三面殿(大黒天を祀っています。)



⑦ 慧春尼堂



⑧ 座禅石

### (3) 大天狗・小天狗

開山了庵慧明禅師の弟子だった道了尊者は、師匠の了庵慧明禅師が最乗寺を建立することを聞いて、天狗の姿になって飛んできて寺の建設を手伝いました。そして了庵慧明禅師がこの世を去ると、寺を永久に護るために天狗の姿に化身して舞い上がり、山中深くに飛び去ったといわれ、以来、寺の守護神として祀られています。



御真殿内の小天狗・大天狗



結界門の両脇の小天狗・大天狗



奥之院へ向かう 354 段の階段参道の両脇の小天狗・大天狗

#### (4) 高下駄

御真殿脇に奉納された大小の高下駄があります。天狗さんの履き物は高下駄ですが、下駄は左右一対そろって役割をなすところから夫婦和合の信仰がうまれ、「和合下駄」とも呼ばれ奉納者が後を絶ちません。最乗寺には、世界一の高下駄と初代高下駄があります。



世界一の高下駄(3,800kg)



初代高下駄(1,500kg)

## 2. マンリフト

最乗寺にはこれまでに20～30回訪れていますが、今年7月に初めて「マンリフト」と呼ぶケーブルカーの運行を目撃しました。マンリフトは、特別祈禱が行なわれる御真殿までの移動が困難な方に使用されます。観光地にある洋風のケーブルカーの形状はお寺に不似合だということで、「切り妻」の屋根を有する和風の形状にしたということです。



境内の林の中の軌道



運行中のマンリフト



本堂の左奥に停車中のマンリフト



マンリフトの内部

ケーブルカーは上り、下りを共有する単線です。したがって、中間地点にすれ違い部分があり、これを「ターンアウト」と呼びます。運転方式は交走式(つるべ式)と呼ばれ、1本の長いケーブルの両端に車両を繋ぎ、井戸の釣瓶のように一方の車両を巻上装置の操作により引き上げると、もう一方の車両が降りてくる方式です。降りる車両の重みは上る車両の巻上力の軽減に使われます。ケーブルカーに乗務しているのは車掌で、運転を行っている運転手は山の上のケーブル駅にいます。

マンリフトは1台のみの運行なので「ターンアウト」がありません。しかも1台のみなので巻上荷重が大きくなります。その対策のた



めカウンターウェイト(ダミーの重み)が採用されています。マンリフトでは単線の中で移動するコンクリートブロックを使用しています。マンリフトでは運転する方が車両に乗り、車内から上り、下りの運転を行います。

### 3. ミニチュアのマンリフト

形状がユニークなので、マンリフトのミニチュアを作りました。運行中の写真(P6 参照)から方眼紙に側面図・正面図を書き作りました。

運行中のマンリフトは内部を見ることができず、最初のミニチュアの内部は何もない状態でした。しかし先日参拝したときに幸運にも乗せて頂くことができ内部を見ることができたので、現物に合わせ内部を作りました。



ミニチュアのマンリフト



正面



右側(入口側)



裏側



左側



マンリフトの内部



内部に座布団が敷かれた3座席

#### 4. これまでに見たケーブルカー

ケーブルカーの一種に「インクライン」があります。構造はケーブルカーと同様ですが、人でなく物資を運搬することが目的のもので、宮ヶ瀬ダムではダム建設に使用されました。ダムの完成後は人が乗り観光目的に使用されています。



2015年までの旧型(大山、伊勢原市)



2015年からの新型(大山、伊勢原市)



高尾山(東京都八王子市)



御岳山(東京都青梅市)



箱根(箱根町強羅)



宮ヶ瀬ダムのインクライン(愛川町)

# ミニチュア工作 マンリフト

---

令和4年8月 初版発行

著者 村上洋一

発行所 村上出版社